

[果樹部門]

7. 近年、問題となっているナシの生理的果肉障害

[要約]

近年、ナシの様々な品種において果肉障害が発生している。これら果肉障害は煮え果症、水浸状果肉障害、コルク状障害、内部亀裂に分類できる。

[担当] 中山間農業研究室

[連絡先] 電話 086-955-0276 (果樹研究室)

[分類] 情報

[背景・ねらい]

現在、全国的にナシの果肉障害が発生している。そこで、本県に発生している主な果肉障害を紹介し、今後の発生調査、対策の資料とする。

[成果の内容・特徴]

1. 果皮周辺部が褐変を伴う、あるいは伴わない水浸状の症状となる煮え果は、「新高」で発生する(図1)。
2. 果肉内の不特定部位に褐変を伴う、あるいは伴わない水浸状果肉障害は「新高(図2)、あきづき(図3)、愛甘水、おさゴールド及び南水」で認められる。果肉内の一部の維管束の周辺から水浸状態となっている。
3. 果肉内の不特定部位にコルク状の褐変した障害が現れるコルク状障害は初期には微孔が発生し、「豊水(図4)、あきづき(図5)、真寿、陽水及び晩三吉(図6)」に症状が認められる。なお、北部支場では発生がないが、他県では「王秋」(図7)にも多発しており、県内でも発生が認められている(岡山県果樹研究会ナシ部会)。
4. 「翠冠」(図8)では果梗部内部に亀裂ができ、褐変化する障害が発生する。
5. 北部支場で栽培しているナシ 20 品種のうち、2009 年度に果肉障害の発生が認められなかったのは6品種(「新水、若光、幸水、なつしずく、かおり(30-22)及び王秋」)のみである(表1)。

[成果の活用面・留意点]

1. コルク状障害は他県では果肉褐変症や果肉崩壊症と呼称されていたが、2009 年 10 月に(独立行政法人)果樹研究所でコルク状障害と名称を統一した。
2. 果肉障害の発生要因及び対策については、明確になっていない。
3. ほとんどの果肉障害は外観からは判別できない。

[具体的データ]



図1 「新高」の煮え果



図2 「新高」の水浸状果肉障害



図3 「あきづき」の水浸状果肉障害



図4 「あきづき」のコルク状障害



図5 「豊水」のコルク状障害



図6 「晩三吉」のコルク状障害



図7 「王秋」のコルク状障害 (参考); 他県産果実



図8 「翠冠」の果梗部内部亀裂

表1 北部支場栽培品種における諸果肉障害の発生率(参考)

品 種	煮え果	水浸状 果肉障害	コルク状障害 (含空洞)	内部亀裂
新 水	0.0	0.0	0.0	0.0
若 光	0.0	0.0	0.0	0.0
なつしずく	0.0	0.0	0.0	0.0
愛甘水	0.0	53.3	0.0	0.0
幸 水	0.0	0.0	0.0	0.0
翠 冠	0.0	0.0	0.0	80.0
真 寿	0.0	0.0	66.7	0.0
豊 水	0.0	0.0	60.0	0.0
おさゴールド	0.0	13.3	6.7	0.0
かおり(30-22)	0.0	0.0	0.0	0.0
あきづき	0.0	1.7	1.7	0.0
新 星	0.0	46.7	0.0	0.0
南 水	0.0	13.3	0.0	0.0
陽 水	0.0	0.0	66.7	0.0
新 高	1.7	13.3	6.7	0.0
白新高(通称)	0.0	100.0	0.0	0.0
王 秋	0.0	0.0	0.0	0.0
愛 宕	0.0	0.0	6.7	0.0
晩三吉	0.0	0.0	80.0	0.0
シルバーベル	0.0	0.0	33.3	0.0

注) 1品種15~60果供試、2009年調査

コルク状果肉障害は販売に支障のない微発生段階のものを含む

[その他]

研究課題名：果樹導入品種の選定

予算区分：県単

研究期間：2009年度

研究担当者：笹邊幸男

関連情報等：平成6年度試験研究主要成果、23-24